

社寺空間等の利用形態に関する現況調査

東北工業大学 正会員 ○松 山 正 将 東北工業大学 正会員 花 沢 健 一
株式会社 FGC 正会員 松 下 紀 幸 東北工業大学 正会員 菊 地 清 文
株式会社 邦栄測量設計 飯 塚 正 広 東北工業大学 正会員 佐 伯 吉 勝
宮城教育大学 平 吹 喜 彦

1：はじめに

豊かな自然環境や歴史的環境は、私達一人一人の人格形成に大切であり、こうした環境を備える「まち」の潜在的教育力は、次の世代の地域の担い手を育み、環境への深い慕いと保全への行為に価値を見出す人格を育てると言われている。市街地の社寺境内や保存緑地をこのような視点で、環境教育、郷土史教育、緑のネットワーク、防災等の空間として利活用の可能性を引き出す事が必要に思われる。

著者等はこのような考え方にに基づき、旧仙台市域の社寺空間と保存緑地の現況調査を行なっている。本報告は、これら調査の中から社寺空間現況調査で得られた知見について述べるものである。

2：調査対象地域

仙台の市街地には藩政時代と関わりが深い数多くの神社（約100）、仏閣（約200）が存在する。調査は先ずこれらの中から、保存緑地や風致地区等に指定され、公的性格が比較的高い社寺空間を選び出し、図-1に示す、大年寺山、愛宕山、亀岡八幡宮、文殊堂、大崎八幡宮、輪王寺、青葉神社、東照宮とした。

3：調査方法

最新の国土基本図（縮尺1/2500）や数値地図（標高：50m、200m）そして古絵図、郷土史文献等を参考に現地踏査による現況把握と、管理者からの聞き取りにより資料の収集と充実を図った。又、境内の参道や樹木の詳細把握の必要性がある場合は、地形測量と毎木調査そして利用者観測等を行なった。

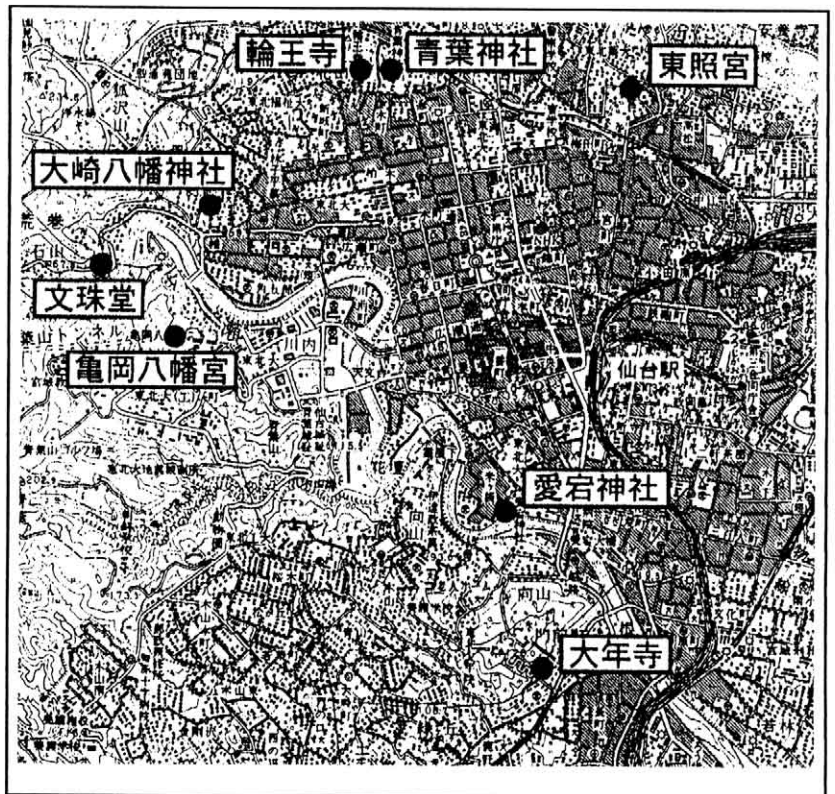


図-1 主な社寺空間調査対象地域

4：調査結果

ここでは境内空間をうまく活用している事例として東照宮を、その逆の事例として亀岡八幡宮、又開発計画があり市民への啓蒙・啓発情報が必要な地域の事例として大年寺山について報告する。

(1)東照宮：東照宮は1591（天正19）年徳川家康が仙台藩北部の葛西大崎一揆の視察を終え、帰途の折りこの地に休息した事に由来し、二代藩主伊達忠宗が1649（慶安2）年に普請を始めて、1654（承応3）年に完成したものである。尚、この境内は仙台市の9番目の保存緑地に1975（昭和50）年指定されている。従って、近隣小学校の環境教育や散策空間として、又町内会のバザーや各種集會に

*キーワード：社寺空間・保存緑地・環境教育・郷土史教育・環境保全

**連絡先：982-8577 仙台市太白区八木山番町35-1 TEL 022-229-1151(大学) FAX 022-229-8393(学科)

も活用されている。特にユニークな催物は、15年ほど前から毎月第四日曜日に開催されている「仙台古美術骨董の青空市」である。毎回朝早くから大勢の人が集い、午後3時頃まで参道はその人々で賑わう。

(2) 亀岡八幡宮：亀岡八幡宮は伊達氏一世朝宗時代からの結びつきが深く、四代藩主伊達綱村が1683（天和3）年現在地に遷宮した。鎮守の森にふさわしい広大な境内にも関わらず、管理者が常駐していない事から境内建物や参道石段そして樹木等放置状態にあり荒廃は顕著である。しかし、参道中間に位置する二ヶ所の空間（約1760㎡：約530坪、約220㎡、約67坪）は、活用対象として有効な資源の一つと判断された。表-1と図-2に、東照宮と亀岡八幡宮に関する資料と参道の縦断面図を示す。

(3) 大年寺山：大年寺山は、前述の伊達綱村が1695（元禄8）年に建立に着手した両足山大年寺に由来して呼称されたようである。往時の大年寺山には、付属の二十塔頭が建ち住僧が三百人にも及ぶ大寺院であった。明治維新後は伊達家の庇護を失い、排仏毀釈の動きを反映して、藩主墓地の無尽燈廟、宝華林廟そして惣門を残して全て廃絶してしまっている。現在の大年寺山は野草園をはじめ茶道の茂ヶ崎庵や仙庵の施設を備え、風致地区と保存緑地に指定されるなど緑も多く、散策、憩いの場として市民に親しまれている。しかし、このような歴史的背景と共に、歴代藩主墓域（無尽燈廟：四代藩主、五代夫妻、十代夫妻、十二代夫妻と宝華林廟：六代夫妻、七代夫妻、八代夫妻）のある貴重な空間である事は意外と知られていない。その事に関わって、墓域周辺は建設資材仮置場や不法なゴミ投棄も加わり、何とも貧相な空間となっている。図-3は、改善の動機づけ情報として作成した一例で、無尽燈廟の鳥瞰図である。

5：おわりに

まちなかのさまざまな空間を有効利用するために、現況調査に取り組み改めて確認できたことは、貴重な資源を数多く有している社寺空間や保存緑地が情報化できずに、市街化に埋没してしまっている事であった。歴史や自然環境を生かすまちづくりが、まちの潜在的な教育力保全につながることを期待し、今後もこのような調査と情報づくりを継続するつもりである。◆これらの調査は、当研究室研修生1996年度（森・山下）、1997年度（芳貴・丸山）1998年度（庄子・木村）、1999年度（菅原）君らと共に行なわれたことを付記する。

表-1 東照宮と亀岡八幡宮の調査資料

		東照宮	亀岡八幡宮
駐車場		第1、第2駐車場有り	正式な駐車場はない
アクセス		仙山線東照宮駅下車 徒歩5分	市営バス老人福祉センター前下車 徒歩10分
参道距離		117.24m	217.88m
参道高低差		15.24m	62.69m
勾配	石段の平均	45%	47%
	参道全体	13%	23%
指定文化財		石鳥居（国の重要文化財）、桜門・手水舎（県文化財）	宝物の刀剣（国宝） 石鳥居（県重要文化財）

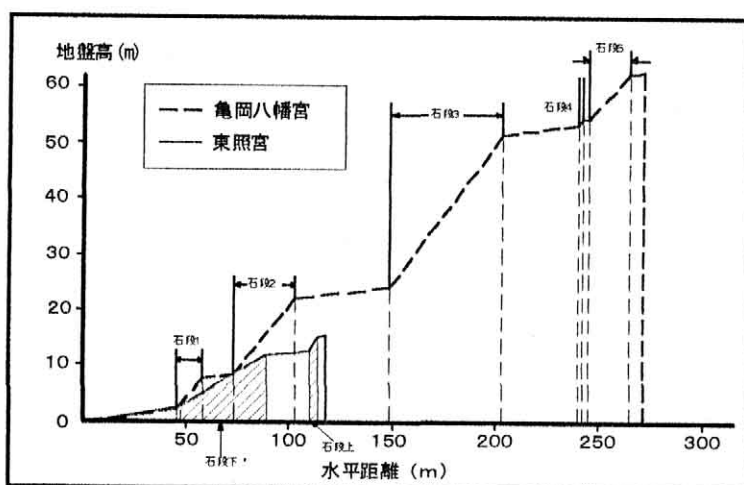


図-2 東照宮と亀岡八幡宮の参道縦断面比較

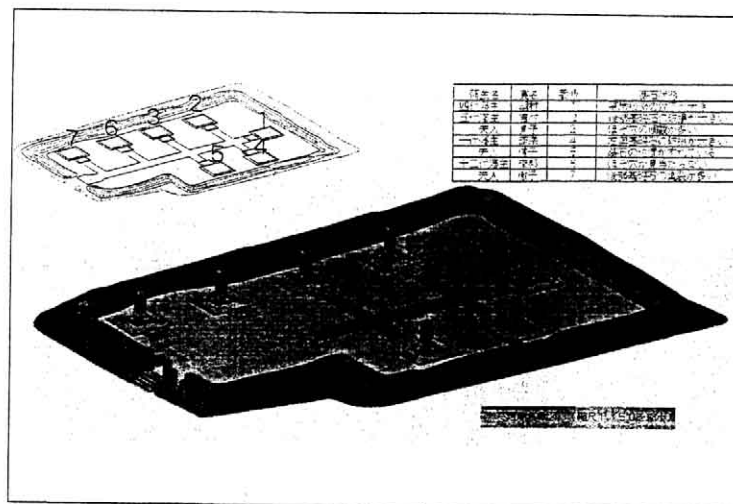


図-3 大年寺無尽燈廟の鳥瞰図